

## 化粧品中のタンパク加水分解物の安全性に関する特別委員会・東海ブロック小委員会

日時：2011年9月6日（火） 19：00～22：00

場所：名古屋マリオットアソシアホテル 22F 会議室

出席者：松永佳世子委員長、委員：加藤善一郎、岸川禮子（特別参加）、田中宏幸、矢上晶子  
オブザーバー：中村政志（藤田保健衛生大学）、太田理絵（藤田保健衛生大学）

欠席：宇理須厚雄、杉浦伸一

### 議事概要

1. 委員会の緊急招集となった背景、第2回 化粧品中のタンパク加水分解物の安全性に関する特別委員会において討議された事項、および本日の議事進行について松永委員長より説明された。

特に、診断基準については、経口小麦アレルギーと茶のしずくアレルギーについて活発な議論が交わされたが結論には至らなかったことを報告し、再度討論した。\*

2. 株式会社悠香からの8月26日時点での症例数の報告が配付資料4に基づき報告された。

1. 診断書から 50件(累計305件)
2. その他症状に関する情報から 163件(累計905件)
3. 医療関係者から 20件(累計136件)

総計1346件

これらの結果を元に、改めて茶のしずく石鹼アレルギー患者における臨床的特徴について討論した。

3. 資料に従い、藤田保健衛生大学中村氏、矢上委員より研究結果が説明された。

ドットプロットによるIgE抗体検査から、WDEIA患者よりも顕著に茶のしずく石鹼アレルギー患者にグルパール19Sに対するIgE抗体が認められ、血清中のIgE抗体を評価することが診断に利用できると示された。グルテンに対してのIgE抗体は、茶のしずく患者と小麦アレルギー患者では大きくは変わらないが、健常者よりも高い値であった。

SDS-PAGEの結果から、グルパール19Sの分子量分布がグルテンのそれに類似傾向であること、また、2D-PAGEの結果から、グルテン中では微少であった酸性側のタンパク質が、グルパール19Sでは酸性領域のみに存在する事が示された。

4. 加水分解小麦の抗原性、感作性に関する今後の研究について話し合った。

- ・グルパール19Sにおける抗原解析（中村氏）
- ・マウスでのグルパール19Sを用いた動物モデルにおける解析（田中委員）
- ・茶のしずく石鹼アレルギー患者におけるHLA解析（加藤委員）

\*診断基準についてはその後10月11日に、特別委員会委員による確認がなされ、日本アレルギー学会ホームページに診断基準が示された。

[http://www.jsaweb.jp/modules/news\\_topics/index.php?page=article&storyid=114](http://www.jsaweb.jp/modules/news_topics/index.php?page=article&storyid=114)